

2019年度事業報告

2020年 3月31日
公益財団法人 日本セーリング連盟

2019年度事業報告 総括(案)

2019年度は、基本方針に、スポーツ・インテグリティの向上、セーリングの魅力の普及啓蒙、東京2020に向け、次世代を含む選手の育成とスタッフの強化、日本セーリング界の持続可能性活動の開始を挙げ、当初に下記3項目に関する実行計画を立案した。3項目とも下記の点について目標を十分達成し、大きく前進した年度であった。しかしながら、JSAF会員数は減少の歯止めがきかず、1万人を割り、2020年度に向け、規模、財政の両面での課題が浮き彫りになってきた。また、2月に入り、コロナ禍が世界に拡大し、3月24日にはオリンピックの1年延期が決定され、新たな課題も提示された。

1. セーリングスポーツの普及、発展と安全確保
 イベント、レースオフィサー、メジャーなどのレースオフィシャルの育成強化による質の高いレースの実現
 委員会横断での「事故報告」収集による安全対応情報展開の仕組み構築
 日本財団助成による「海と日本プロジェクト」、マリナーニブル、小学校訪問授業 等による1万人を超えるセーリング未知者との接点拡大
 過去に例のない70名を超える指導者講習への参加によるスポーツ・インテグリティ向上に向けた土台作り
 国際大会でのe-sailingの普及とファン構築
 田ヤイルドーム運営(含む国際大会)による女性選手、運営者参加の拡大

2. 東京2020に向けた選手の更なる国際競争力の強化
 選抜選手活躍による国際大会の入賞や、国神獲得、また、11種目中、10種目の内定により、勝利への弾み
 JSAFが加盟団体と一体になって、全国のレースオフィシャル参加による国際レベルトレーニング実施により、2020TOKYO成功に向けて準備固め
 次世代選手の国際大会での活躍
 広報活動強化によるTopアスリートの一般への認知拡大
 オリ大会に向けた外洋選抜選手強化体制の準備

3. 団バンスや加盟団体サポートのための組織強化と人材育成
 団バンスコード制定に即応したコンプライアンス教育の立上げ
 2019年3月に設立した「海若の愛基金」を活用して、小笠原、パラオ共和国、小学校訪問授業、音楽フェスティバルへの出張などを通しての海洋環境クリーン活動の訴求
 JSAFビジョン制定によるセーリング界が向かう方向性の共有

JSAF 総務委員会 委員長：安藤 淳 副：庄司一夫、横田昌嗣、中村隆夫

事業内容	時期	場所	成果の概要(評価、反省、次年度への課題や反映事項を含む)
1. 公益財団法人としての組織運営への対応(JSAF実行計画1.(5)3.(1)(2)(5))	通年	岸記念体育会館及びJapan Sport Olympic Square	理事会、評議会、全国加盟団体代表者会議(含む、定期表彰)は計画通り開催することが出来た。総務委員会は、原則として月1回開催し、理事会付随事項等について討議、検討を行った。JSPF等の統括団体主催のNF向け会議等への参加を通じて、中央競技団体としてのガバナンス強化の重要性を認識するとともに、JSPFからの調査等へ関連委員会と連携して対応した。 来年度は、中央競技団体に対するガバナンスコードが策定、開示されることから、同ガバナンスコードに対応する各項目について、現状の再確認を進めた。また、理事会、全国加盟団体代表者会議、年1回発行のJ-Sailing誌上において、ガバナンスコード対応の必要性、内容の周知を目的に、報告、要請を行った。コンプライアンス研修については、カリキュラムの検討を行い、来年度実施を前倒しして、JSAF役員、専門委員会委員、加盟団体理事等長クラスを対象として2回実施した。来年度以降も、対象者を拡大するとともに、研修の継続実施を目指す。 来年度は、自己説明、公表の初年度にあたるため、JSAFビジョン、中長期計画策定と連動させ、ガバナンスコードが求めている、役員数の適正化、役員選任方法の見直し、コンプライアンス委員会活動の実質化等、これを実現する関連規程の見直しを含め対策を行っていくとともに、自己説明、公表内容については、総務委員会にて取りまとめ、理事会付随の上、JSAFホームページでの公表を行う。
2. 2. 1. 年会費減額代行への原則移行、カード会員証の原則廃止について、加盟・特別加盟団体の要望を踏まえて適切に進める。 2. 2. 2. 会員管理システム稼働後の運用状況をモニタリングし、会員、加盟(特別加盟)団体に対する更なるサービスの質的向上を実現する。 3. JSAFが管理する情報システム(ホームページ、会員管理システム)のサイバーセキュリティ上の脆弱性を検証し、必要な対策を講ずる。	通年	岸記念体育会館及びJapan Sport Olympic Square	前年度は、決済代行の増加とともに、現行システムの使い勝手の改善要望の反映に努めるも、現行システム構成では限界があるため、本年度以降の抜本的なシステム改善に取り組むこととしたが、最終段階で機能仕様を確定できず、改善後システムリリースを延期することとなった。 本年度は、上記機能改善原の円滑なるリリースを行い、残課題の対策とシステム改善を前倒し実施したが、移行において年会費の重複徴収、システム画面の不備に対する個別対応等が種々発生し、JSAF事務局の対策工数増とともに対象会員にご迷惑をかけた。 来年度は、現行システムの安定稼働に注力するとともに、会員増強プロジェクトの進捗と連動し、現行会員管理システムの機能変更等の検討を前倒しで実施していく。
3. JSAF公認・後援(加盟・特別加盟団体主催)行事における適正運営の継続実施(前年度から継続)	通年	岸記念体育会館及びJapan Sport Olympic Square	WSの要請に基づき、事故報告体制の構築を関連委員会とともに、検討し、来年度以降の運用基準を策定し、年度当初より運用を開始したが、事故報告の件数は少数にとどまった。 来年度は、上記運用基準に基づく運用の実質化をモニタリングし、関連委員会とともに、運用実態の向上に努める。主催者保険付保については、ワールドカップ、世界選手権等の開催が増加したことから、関係委員会と連携し、主催者保険付保に万全を期した。次年度についても、同様の取り組みを行う。
4. JSAF事務局業務の効率化の推進(前年度から継続実施)(実行計画3.(1)(3)(4))	通年	岸記念体育会館及びJapan Sport Olympic Square	2018年7月に発生したIP改ざん事故については、事後対策は行ったが、抜本的対策として、NISC指導の下、現在リスク評価を前年度に続いて実施した。 来年度は、東京2020大会を控え、セキュリティ事故の予防、事後対策の実施に万全を期す。危機管理マニュアルが未作成のため、ガバナンスコード対応の一環として種々のインシデントに対応する危機管理マニュアルの検討、作成にも着手する。
5. 表彰関係活動の充実(前年度から継続実施)(実行計画3.(2)(5)(6))	通年	岸記念体育会館及びJapan Sport Olympic Square 夢の島マリナー会館	2019年度定期表彰は、2020年1月の全国代表者会議にて受賞者に対する表彰式(賞状、副賞授与、記念撮影)を挙行了。表彰式欠席者への表彰状送付は、表彰式当日に完了できた。 来年度も、定期表彰式の進行について事前準備を十分行い、受賞者に対する接遇、表彰式欠席者等へのフォローアップに万全を期す。
6. 2020東京オリンピック・パラリンピック対応(前年度から継続実施)(実行計画2.(1)(2))	通年	岸記念体育会館及びJapan Sport Olympic Square	障がい者セーリング推進委員会事業計画に基づき、同委員会の最重要課題(2020パラワールド日本開催招致)の実現へ向けた取り組みに対して、関連委員会として積極的な支援を行ったが、WSの方針変更により、同ワールドは開催中止となった。 来年度についても、上記と同様に支援していくとともに、オリンピック準備委員会、及び同実行委員会に対して、大会運営、成功へ向けた支援を行っていく。

JSAF 財政委員会 委員長：松田一隆 副：堀川浩二

事業内容	時期	場所	成果の概要(評価、反省、次年度への課題や反映事項を含む)
1. 経費基盤の強化。支払・発注手続きの迅速化及び徹底	通年		各専門委員会から日々上がってくる支払・発注の申請の内容確認を通じて、コントローラシップの質の向上に努めた。特に源泉徴収関係の確認、添付された証書の妥当性について都度検証を行った。
2. 適切な予算執行と会計報告の推進と管理	通年		事務局及び総務委員会等関連する専門委員会とも連携し、予算・決算に関し、評議会・理事会等への報告を適時に実施した。
3. 健全な財政基盤の確立	通年		財政基盤の健全化の前提として、JSAFの事業内容や規模を中長期的に見直し必要性がある観点から、Vision検討委員会への積極的な参画を行い、資金の潜在的ニーズの把握するとともに、足元の財政状況についての情報提供を実施した。
4. 中長期的な観点からの事業収支管理の強化と適宜な会計処理 <備考:反省点等>	通年		同上。 上記を踏まえて、次年度は財政健全化プロジェクトに参画。

事業内容	時期	場所	成果の概要（評価、反省、次年度への課題や反映事項を含む）
1. イベントでの商品販売 ・ポर्टショー ・団体 その他、イベントでの商品販売	毎年3月 10月 11月・12月	パシフィコ横浜 茨城団体 関係者等の会場	2020年迄、セーリング普及活動を主としてブース使用の為出店中止 団体名入商品製作と公認グッズ等の販売、販売要員を現地関係者等の夫人にて6日間勤務して頂き、製作商品は売 不動在庫等の販促として、抽選会景品として販売 2020カレンダー製作には写真家が不在で使用写真入手に苦労しましたが、KAZI社の協力を得て無事製作できました。 熱しながら、配送コスト値上げの為サイズを多少小さく作成、名入れも検討したがコストが高いため中止、来年は特 に発行部数も含め再考する所存です。
2. JSAFカレンダー製作販売	11月	印刷工場	公認会員向け商品の補充、在庫がなくなった商品の追加発注、特にエンブレム、ネクタイ、スカーフタイ、ピンズ 類の受注、連年継続販売等の商品化と事業化を目指したいと思います。 制作も品質、高品位の商品企画でJSAFロゴのグレードアップを図れたら、また、その製作と併せて販路開拓を願いま
3. JSAFロゴ入り公認商品製作	通年		
4. JSAF販売商品の管理	通年		
<備考:反省点等>			

購買事情の為、追加一般的に低額商品製作を躊躇し、在庫を積まないことに努めました。また、リサイクルバック等は大量注文を頂いたりしました。より良い商品、特にJSAFロゴ商品、他マリンデザイン商品もイメージアップの為、販売することが良いように考えております。マーケティングに他業種からも情報を得られるよう今後努めたく存じます。

事業内容	時期	場所	成果の概要（評価、反省、次年度への課題や反映事項を含む）
1. セーリングスポーツの普及、 発展と安全確保 ・当社の各委員会活動を 主にホームページを通じて支援す る	通年		各委員会・加盟団体からの依頼にタイムリーに対応した
・セーリングファンの開拓を行う	通年		セーリングへの理解を促進するツール制作。 「セーリング体験ガイド」冊子を制作し、ワールドカップ・団体等のJSAF関連イベントで頒布した。 また選手市・養山町等の自治体にも寄贈し、頒布協力を得た。 セーリング体験を喚起する「はじめようセーリング」冊子の制作は年度内に間にあわなかった。 次年度継続して進める。 ・ホームページ「FUN SAILING」、コンテンツ情報の更新、拡充は継続的に行っている。 次年度も継続して進める。 ・総務報道部部長として団体・リハーサル団体の運営支援を滞りなく行った。
2. 2020に向けた選手の変更 国際競争力の強化	10月	茨城・鹿児島	・イベント、ワールドカップシリーズ、各種国際大会に於いてメディアチームを構成。 取材対応、JSAFからのリリース発信を強化し、メディアでの露出が増加した。 ・日の丸セーラーズとも協業し、SNSからの情報発信も強化。HPへの掲載には一定効果はあった。 次年度はよりライブ感を伝え一般ファンを獲得していくことを課題としたい。
3. メンバーや加盟団体サポートのた めの組織強化と人材育成 ・公益財団法人としてのガバナンス の強化、社会規範やコンプライアンスの 強化、加盟団体/特別加盟団体と一体に なったビジョン/中長期計画の策定	通年		・事務局・総務広報グループの連携は強化できた。 次年度はコンプライアンス研修会等のコンテンツの発信などで貢献していきたい。 ・プロジェクトグループのメンバーとして策定支援を行った。 次年度はJSAF VISIONの会員への啓蒙・共有にも努める。 ・NISC主催の勉強会に参加、恒常的にアドバイスももらえる体制を築くことができた。 ・定期的なユーザーパスワードの設定を実施、外部リスクの軽減を図った。 次年度は分散されている各サーバーを統合し、集中管理することでリスクの軽減を図る。 また理事会・ホームページを通じ、JSAF全体のリスクに対するリテラシーの向上を図る。 ・総務委員会に対する支援は十分とはいえない。 次年度はよりコミュニケーションの視点を図る
・情報システムのセキュリティ対策	通年		
・会員管理システムのサービス向上	通年		
・セーリングスポーツを支える委員 会活動の活性化	通年		・当社の各委員会への支援（HPによる情報アウトプット）はある程度支援できた。 次年度も継続していく。 ・HPとJ-SAILINGを通じて、既存・日の丸セーラーズのスポンサーに対して最低限の支援はできた。 しかしながら新たな付加サービスまでは及ばなかった。また新規スポンサーの獲得もかなわなかった。 次年度も取り組んでいきたい。 ・報道機関の「セーリング担当者リスト」は600名を超えるまで拡充、主要メディアとの関係も強化できた。 延期された2020東京五輪にむけ次年度も一層強化を図っていきたい。 ・定った課題を定める。 次年度は見直しを図る。
・セーリングスポーツを支えるサ ポート企業・団体・会員の開拓	通年		
・セーリングスポーツに関わる 国際人の養成	通年		
その他事業計画	通年		
<備考:反省点等>			

事業内容	時期	場所	成果の概要（評価、反省、次年度への課題や反映事項を含む）
<備考:反省点等>			

事業内容	時期	場所	成果の概要（評価、反省、次年度への課題や反映事項を含む）
1. レディース委員会 ・第1回 ・第2回	2019年9月28日(土) 3月中止	茨城県阿見町龍ヶ浦セーリング特設会場 JSAF事務局	・第1回は茨城団体の期に行ったので、全国の委員9名が集まり、各地の委員を中心とした女子のネットワーク作りの確立をした。 ・新型コロナウイルスの影響により中止
2. チャイルドルーム ・レーザワールド ・レーザリアルワールド ・470ワールドカップ ・テストイベント ・ワールドカップ江の島大会 ・鹿児島リハーサル団体 ・茨城団体	2019年 7月3日(月)～9日(日) 7月18日(木)～24日(水) 8月2日(金)～9日(金) 8月16日(木)～22日(日) 8月25日(日)～9月1日(日) 8月25日(土)～9月1日(水) 9月13日(木)～9月16日(日)	鳥取県境港市環境公共マリーナ 管理棟1階 神奈川県藤沢市江の島ヨットハー バー2階メモリアルルーム 茨城県阿見町龍ヶ浦セーリング特 設 会場本部B棟	・レーザワールド、レーザリアルワールドでチャイルドルームを設置、傷害保険に加入。 ・延べ67人が利用した。選手家族・運営・指導者・観戦者の子どもの利用があった。 ・大塚広いスペースを用意していただいたので、子どもたちを楽しくのびのびと遊ばせることができた。 ・2年前より大会実行委員会より、チャイルドルームを設置したいとの依頼を受けたので、準備の時間が十分とれた。 ・470ワールドでチャイルドルームを設置、傷害保険に加入。 ・延べ30人が利用した。選手・運営・観戦者の子どもの利用であった。 ・海外選手のお子さんもお預かりした。国際大会時には受付と保育士共に英語の堪能なスタッフが必要である。 ・保育士は、地元の保育ボランティアにお願いした。 ・テストイベントでチャイルドルームを設置、傷害保険に加入。 ・延べ41人が利用した。選手と運営スタッフ・観戦者の子どもの利用であった。海外選手のお子さんもお預かりした。 ・海外選手のお子さんもお預かりした。 ・保育士は、地元の保育ボランティアにお願いした。 ・セーリングワールドカップ江の島の大会でチャイルドルームを設置、傷害保険に加入。 ・延べ65人が利用した。選手・運営・観戦者の子どもの利用であった。 ・海外選手のお子さんもお預かりした。保育士は地元の保育ボランティアにお願いした。 ・8月2日から3大会連続での設置であったので、安全面には特に気を付けた。 ・継続的運動がこし国体選手リハーサル大会でチャイルドルームを設置、傷害保険に加入。 ・大会関係者、観戦者延べ16人の利用があった。レディース委員3名で実施した。 ・新築のヨットハウスは2階であったが、外階段も利用できたのでよかった。 ・場所がわかりにくいので、本番ではペナーを用意したい。 ・いきいき安楽島公園に於いてチャイルドルームを設置、延べ利用者69名、傷害保険に加入。 ・レディース委員会と阿見町保育士会、地元高校生ボランティア1名で実施した。 ・選手・運営・観戦者の子どもの利用があった。 ・阿見町立の保育所より、毎日2名ずつ保育士が日替わりで来てくださった。 ・利用する地元の子どもも保護者も目撃があったのがよかった。 ・地元高校生ボランティアは継続して参加してくれたので、日ごとに子どもとの関係が慣れることができた。 ・加盟団体27名が参加。 ・第1回は日本フロンティア協会理事・弁護士の井口加奈子氏による講演会を開催。大変深い内容で好評であった。 ・第2回は参加者による意見交換を行った。今後の普及拡大と今後に向けて活発な意見交換をした。 ・来年年度はより具体的な取り組みについて話し合っていく。
3. レディース委員会主催情報交換会	11月23日(土)	Japan Sport Olympic Square SF スポーツクラブ	・事前に実行委員会を2回開催した。広報委員会・総務委員会・事業開発委員会・事務局との仕事分組をした。 ・次年度も招待者の人数がさらに増えるので、第1回の実行委員会を11月下旬に開催するとよい。 ・レディース委員会6名が参加予定であったが、新型コロナウイルスの影響で延期となった。 ・次回の日程は未定 ・来年度も多くのレディース委員が参加できるように、事前に情報を伝えるようにしたい。
4. JSAF新年会実行委員会	12月5日(金) 2020年1月20日(月)	JSAF事務局	
5. 2019年度JOC総務本部フォーラム	2020年2月27日(木)	Japan Sport Olympic Square	
<備考:反省点等>			

事業内容	時期	場所	成果の概要（評価、反省、次年度への課題や反映事項を含む）
WSアスリート委員会との打ち合わせ	2019年6月	フランス マルセイユ	オリンピック開催国として、アスリート委員会の運営を支援できた
2024年パリオリンピック種目の適正化	2019年10月		選手目録での種目別の各国の提案が、考えを知ることが出来た
ワールドカップ、大会開催時期の検討	2020年1月	アメリカ マイアミ	選手の事情を考慮した大会日程について、各国の関心点を出し合う場によって考えを共有することができた
			最大の関心点であることが分かった。すべての試合を転送するには、艦を3艇持つ必要がある。どの国もコスト面で問題がある事を確認。
国民体育大会への役員派遣	2019年10月	茨城 観ヶ浦	アスリート委員会のメンバーとして初めて国民体育大会に役員を派遣。

<備考:反省点等>

事業内容	時期	場所	成果の概要（評価、反省、次年度への課題や反映事項を含む）
1) JSAF主催大会等へのジャッジ・アンパイア派遣	9月、10月	鹿児島、茨城	・国体リハーサル大会、国体にジャッジを派遣、開催地のジャッジとの交流を通じ全国のジャッジレベルの向上にも貢献した。
2) ジャッジ・アンパイア関連書の翻訳・発行	12月	—	・World Sailingの発行したジュリーポリシーを日本語訳してWEBに公開した。
3) ナショナルジャッジ・アンパイア講習会の開催	12月	三葉	・1回のA級ジャッジ(NJ-A)認定講習・試験を実施し、合計10名の受講者があり、3名が合格した。うち2名をNJ-Aに新たに認定。1名は大会参加経験要件を充足した時点で認定となる。年度末時点でB級ジャッジは264名となった。
	10月、11月	志摩、業山	・前年のアンパイア(NU)選手試験合格者の海上実技アセスメントを実施、1名が合格して新たにNUに認定された。年度末時点でNUは28名となった。
	2月	西宮	・A級ジャッジクリニックの開催を全国各地6カ所で行っていたが、新型コロナウイルスの影響でうち6回の開催を延期した。開催した四百名場では19名の参加があった。新型コロナウイルスの状況や開催地の希望に応じて、新年度に延期分を開催したい。
4) B級ナショナルジャッジ認定のための村付講習	都度	—	・B級ジャッジ(NJ-B)の認定講習・試験を実施した各加盟団体・特別加盟団体から選出された実務報告に基づき認定業務および規定艇艇乗行作業を実施した。178名が新たに認定された。年度末時点でB級ジャッジは116名となった。
6) 国際ジャッジ・アンパイア(IJ/IV)の育成	7月、8月、9月	境港、江ノ島、江ノ島	・海外大会と国内で開催された国際大会や、国際ジャッジ/アンパイア(IJ/IV)候補者(3大会、延べ4名)を派遣し、IJ/IV認定に必要な実務・経験の修得を支援した。
	都度	国内外各地	・オリシ委員と連携し国際大会で選手をサポートするルールアドバイザー(IJ)を派遣。IJ候補者を補助として従事させることでIJ候補者の養成にも寄与している。
6) 指導者・選手向けルール講習会の開催	1月～3月	全国各地	・全国各地で17回開催。うち2回は前年度開始した外洋セーラー向け。合計843名(うち外洋向け90名)の受講者を得て、指導者、選手へのルール講習の普及、スグロメンションの提供とルール理解の促進に貢献した。
7) ルールブックの普及	都度	—	・海外大会と国内で開催された国際大会や、国際ジャッジ/アンパイア(IJ/IV)候補者(3大会、延べ4名)を派遣し、IJ/IV認定に必要な実務・経験の修得を支援した。
8) アンパイア制レースの普及	都度	—	・講習会などの機会も活用するなどして、ルールブック(紙本版:約200冊、電子版:約20本)を追加販売した。
委員会基本活動:ルール関連資料の翻訳・発行	都度	—	・アンパイア制レースの大会実施のためのノウハウの提供やアンパイア派遣などの支援を行った。アンパイア制フリーレース大会は前年度からの定着を含めて8大会(前年度5大会、前々年度3大会)が実施された。チームレース大会は、従来実施2大会からの上積みが見えないが、今年度試験的開催が1回あり、来年度以降の定着に繋がるかが課題。
	3月	—	・World Sailing Q&Aサービスを日本語訳してWEBで公開した。
	2月	—	・World Sailingより新たに発行されたRRS付別IV(視界不良時における競技規則)を日本語訳してWEBで公開した。
	3月	—	・World Sailingの発行したケースブックの2020年追加補遺を日本語訳してWEBで公開した。
	都度	—	・前年度までに製本・発行したケースブック2017-2020版(400冊)を発売し、200冊を増刷した。

<備考:反省点等>
 ・新型コロナウイルスの影響で、ジャッジクリニックおよび指導者・選手向けルール講習会の開催を合計10回で延期した。新型コロナウイルスの状況や開催地の希望に応じて、新年度に延期分を開催したい。
 ・各所で大会が延期・中止される状況の中、来年度のジャッジおよびアンパイア資格更新要件である大会参加回数の減額について、ルール委員会とレースマネジメント委員会それぞれで議論を開始した。4月中に両委・DLmarket社のサービス停止を受けて、ルールブックとケースブックの電子版書籍の販売をメール対応によるルール委員会直接販売とした。結果として、DLmarket社からのWEB販売と比べて販売数が激減した。メール

事業内容	時期	場所	成果の概要（評価、反省、次年度への課題や反映事項を含む）
国民体育大会・プレ団体へのレース委員の派遣	9月、10月	茨城県、鹿児島県	国体・プレ団体にレースマネジメント委員を派遣し、安全・公正・公平に大会を開催した
JSAF共同主催・公認・後援審査	4月～9月	—	公認・後援が規則に則り、適正に行われているか管理した
レースマネジメントクリニック	2019/4/21	茨城県土浦市	11名が参加、レースオフィシャルズのスキル維持と向上を図った
	2019/4/28	京都府京都市	32名が参加、レースオフィシャルズのスキル維持と向上を図った
	2019/5/19	愛知県稲沢市	18名が参加、レースオフィシャルズのスキル維持と向上を図った
	2019/7/27	鹿児島県鹿児島市	14名が参加、レースオフィシャルズのスキル維持と向上を図った
	2019/11/10	広島県広島市	19名が参加、レースオフィシャルズのスキル維持と向上を図った
	2019/12/1	愛媛県新居浜市	18名が参加、レースオフィシャルズのスキル維持と向上を図った
	2019/12/14	和歌山県和歌山市	16名が参加、レースオフィシャルズのスキル維持と向上を図った
	2020/1/19	宮城県仙台市	31名が参加、レースオフィシャルズのスキル維持と向上を図った
	2020/2/2	北海道函館市	7名が参加、レースオフィシャルズのスキル維持と向上を図った
	2020/2/23	兵庫県西宮市	36名が参加、レースオフィシャルズのスキル維持と向上を図った
	2020/2/24	富山県射水市	27名が参加、レースオフィシャルズのスキル維持と向上を図った
AROセミナー	2019/5/12	広島県広島市	13名が参加し、ARO13名を認定した
	2019/6/30	滋賀県大津市	28名が参加し、ARO28名を認定した
	2019/12/1	三重県津市	19名が参加し、ARO17名、CRO2名を認定した
	2020/2/15	千葉県千葉市	23名が参加し、ARO23名を認定した
	2020/2/22	青森県青森市	4名が参加し、ARO3名、CRO1名を認定した
NROセミナー	2019/11/09～10	東京都中央区	16名が参加し、NRO16名を認定した
外洋合同委員会	2020/2/1	北海道函館市	外洋合同委員会を開催し、レース/大会運営に関する情報提供、共有を図った
江の島トレーニングプログラム	2019/4～2020/03	神奈川県藤沢市	全21回開催し、2020年海上スタッフのスキルアップのため、実際にレースの行われる海面上でトレーニングを実施した
IROクリニック	2019/4/12～14	神奈川県藤沢市	IRO資格取得のため、WorldSailingから講師を招聘しクリニックを開催した。参加者7名
IROセミナー	2019/6/10～12	神奈川県藤沢市	IRO資格取得のため、WorldSailingから講師を招聘し筆記試験を実施した。9名受験し、6名が筆記試験合格
全国レースマネジメント委員会	2019/12/7	愛知県名古屋	来年度の事業計画・予算要求等について協議した
各国際大会へのレース委員の派遣	9月	神奈川県藤沢市	Leser World, 470 World, Olympic Test Event, Sailing Worldcupの島大会 ASAR江の島オリンピックウィーク等大会への委員の派遣

<備考:反省点等>
 ・4年に一度のルール更新となるが、NRO更新要件のクリニック受講率は69%と低く、受講率の低い地域でのクリニック開催を検討する。
 ・また、更新講習会の講師のための講習会開催を計画し、レースマネジメント委員会メンバーから講師を養成する2020東京に向けて、オリンピックが行われる相模湾にて、トレーニングを実施し運営メンバーの更なるスキルアップを図る

事業内容	時期	場所	成果の概要（評価、反省、次年度への課題や反映事項を含む）
委員会基本活動	通年	—	公式計測員の名簿管理、計測員養成セミナーの計画と資料作成を行った
公式計測員管理	10/26-27	鹿児島市 平川ヨットハーバー	2020年に予定されているERS更新による難関準備を行った。
I M養成支援	5月、8月、12月、2月	ノースセールジャパン	鹿児島国体に向けた計測員養成セミナーを実施した。本年度は希望者がなく実施しなかった。
IHC管理	10月23日	—	カーセールジャパンから年間4210枚のステッカー購入があった。
国体関連	9/13-16	鹿児島市 平川ヨットハーバー	横浜ロフトにて既定の監査を行い、正確に計測されていることなどを確認した。
東京2020計測員クリニック	9/29-10/2	茨城県阿見町 特設会場 江の島ヨットハーバー	鹿児島国体で大会計測を実施した。ライフジャケットの品質・サイズで問題のある選手があった。また、講師を招聘しトレーニング選手向けの計測ヘルプの作成を行った。実用レベルで充実した内容で

<備考:反省点等>
 ・計測業務に従事いただけるスタッフが不足している。ボランティアレベルでの活動に限界があるように思われる。技術力を有するスタッフの確保の方策が必要である。
 ・クラス協会によって計測業務への意識にばらつきがある。十分な計測環境を維持できないクラスが増える可能性が高い。対応の検討が必要である。

事業内容	時期	場所	成果の概要（評価、反省、次年度への課題や反映事項を含む）
実行計画1. セーリングボートの普及、発展と安全確保			
1) JSAF新指導者育成体系構築(継続)			
・JSAF指導者指針および指導者規程の策定(新規)	3月	—	H30年度に策定し、承認された「JSAF指導者育成体系」に基づき、指導者が活用推進するために、指導者の行動指針や資格規定を策定する。 教材作成に膨大な工数が取られ、指針の策定開始が遅れた。そのため、指針策定開始に止まり、規定についても策定できていない。来年度の6月の理事会を目前に上程する予定。
・専門科目講習会の改定(新規)	5月～12月	福岡、神戸、東京	2019年度より改定されるJSPOスポーツ指導者養成制度に合わせて、「JSAF指導者育成体系」に基づく新カリキュラムに準拠したコーチIIの実施プログラムと、コーチIIIの具体的な教材開発プログラムの検討会を4回実施して、コーチIIの具体的な構成を完成させた。新規に海上実習の実施プログラムを新化したことにより、コーチIIのプログラム策定の工数が確保できなかった。次年度以降は、およびコーチII/IVの実施プログラムと教材を開発する必要がある。
2) 次世代公認指導者の養成(継続)			
・公認指導者養成講習会の開催(JSPO委託事業)	前期: 10月25～27日 11月08～10日 後期: 1月31～2月2日 2月14～16日	前期: 東京/福岡 後期: 和歌山	ジュニア・ユースの指導者を中心にコーチIII養成専門科目講習会の開催。 2019年度は、国体監督の資格向上に向け、2回の実施。 今年度はJSPO共通科目、JSAF専門科目ともに改定になり、新しいスタートを切った。特に、専門科目の後期講習では、20時間12時間の海上講習を設定し、荒天(強風)を想定した安全の実施を受講者全員が体験できるように、コーチIV資格保持者にコーチデブローパー役を担当頂くことで、前後期合わせて73名の受講者の育成を実現した。共通科目との割合も十分とされており、受講生の評価も非常に高いものとなった。そしてコース講習会のみの実施であるが、新規に5名の応募があり、通年受講者を加えて前期21名、後期20名の参加で講習会を実施。開催場所については、前期は東京1回ずつ、後期は、NTCを活用して、和歌山での実施とした。来年度は33名の受講申し込みがあり、前後期とも和歌山で実施予定。
・公認指導者養成講習会 共通科目IIIへの講師派遣(JSPO主催事業)	7月26-29日 8月3-4日/17-18日 8月22-25日 9月20-23日 10月17-20日 10月18-21日	東京 大阪 東京 東京 東京 大阪	JSPOが共通科目講師養成を目的にJSAFから2名がコーチデブローパーを認定された。ファシリテーションスキル向上と、専門科目との整合性を目的に、講師として10コース中、6コースに参加。来年度は、新たに1名を加え、8名にて共通科目の過半数に講師として参加予定
3) 公認指導者の継続的レベルアップ			

<p>・指導者講師研修会の開催 (JSP0助成事業)＜新規＞</p>	<p>12月14～15日</p>	<p>若洲ヨット訓練所</p>	<p>策定したコーチⅢ講習カリキュラムで海上講習パートを指導するコーチデベロッパーを養成するため、上級コーチ資格保持者を対象にした講習会の実施 今年度は、コーチデベロッパーが、実際の講習で何をゴールに実施するのか、進め方はどうすべきか？各パートで共通して行う事は何か？など各自の講習内容を共有したり、標準化したりすることもできた。来年度も、初めて実施した内容のブラッシュアップと共に、現場で活動するコーチに、コーチデベロッパーとしての活動をする場の提供と、現場指導の実態を踏まえた講習にするための検討会として開催したい。</p>
<p>・更新研修の受講促進＜継続＞</p>	<p>前期：10月25～27日 11月08～10日 後期：1月31～2月2日 2月14～16日</p>	<p>前期：東京/福岡 後期：和歌山</p>	<p>指導者資格更新に必要な更新研修実施と加盟団体主催講習会の更新研修認定。 研修情報の周知受講者情報の確実な登録を実現する関連委員会との仕組運用。 公開コーチ講習会開催時に、近隣県から義務研修として受講者を募集し、1日だけの参加により、講習会内容の理解を促した。また、JSP0が年度内に開催した「グッドコーチング」講習を、対象者に案内した。加盟団体からの義務研修認定要請はなかった。関連委員会との協業が進み、義務研修登録に関するトラブルが激減し、仕組みの定着ができてきている。</p>

②アンチドーピングの指導、啓蒙	全日本470選手権	江の島 (11月24日)	-
③スポーツアーマシストの育成	団体監督会議	茨城 (9月28日)	-
④アウトリーチ活動の推進	ワールドカップ2019	江の島	本年度は該当なし
4) セーフティシーリングの推進	全日本470選手権	-	来訪者139名
5) ISAF主催大会の確実な成功	-	-	来訪者18名
			-

①競技会における教職体制の構築	4月27日～6月5日	葉山	関東学連春季選手権大会
	9月14日～10月6日	葉山	関東学連秋季選手権大会
	8月2日～4日		国際交流日本ジュニアヨットクラブ競技会
②安全講習会、公認コーチ講習会に講師の派遣	10月20日	大阪	ミキハウスカップ大阪2019
	-	-	-
③選手の健康管理、相談への対応	-	-	-
2.選手の間際競争力の強化	-	-	-
①海外派遣選手に対する対応	3月25日～4月7日	スペイン	プリンセスソフィア杯トレーナー帯同
	2月21日～3月1日	オーストラリア	RS-X世界選手権トレーナー帯同
②LINE、メールによる連絡体制	-	-	オリンピック強化委員会、ナショナルチームと医事科学委員会委員でLINEグループを形成、活用している。
3.組織強化と人材育成	-	-	-
①委員会活動の活性化	-	-	普及委員会、国体委員会、オリンピック強化委員会との連携
②委員会組織の見直し	-	-	i) ワールドセーリング医事委員会との連携 メディアカルインフォメーション担当を任命(高橋正哲委員)
	-	-	ii) 委員の増員
③ワールドカップ、オリンピックテストイベントへの協力	8月	江の島	大会の医療支援：診療室、ドクターボートへ医師派遣 トレーナー派遣 オリンピック組織委員会に AMSVを派遣 i) スポーツドクター養成講習会終了：5名 スポーツドクター養成講習会応募：1名 ii) 下記大会等における選手へのアンダービギング教材の配布 ・ワールドカップ、ワールドユース渡航前合宿 ・世界選手権派遣前渡航前合宿 ・ワールドカップ2019ENOSTIMA ・インターハイヨット競技 ・全日本学生ヨット選手権大会 ・全日本スナイプ級選手権大会 ・全日本470級選手権大会 ・全日本レーザー級選手権大会
			④.その他

<備考:反省点等>

JSAP 国体委員会 委員長：森 信和 副：黒川重男

事業内容	時期	場所	成果の概要(評価、反省、次年度への課題や反映事項を含む)
1.第74回国民体育大会茨城国体の開催	9月29日～10月2日	茨城県阿見町霞ヶ浦セーリング特設会場	・参加 676名、353艇 天皇杯：神奈川県 皇后杯：山口県 ・イベント事業の開催：見えるセーリング競技の実施(LIVE放送) ・スマホ、パソコンでセーリング競技中継を見ることができ好評であった。 ・チャイルドルームの設置 ・環境エコ事業(エコバック作り方教室) ・第66回全日本実業団ヨット選手権大会 ・第21回全日本セーリングスピリッツ級選手権大会 ・2019年全日本セーリング選手権大会 420級、ウィンドサーフィン、レーザー級、レーザーラジアル級
2.鹿児島国体リハーサル大会の開催	9月14日～16日	鹿児島県鹿児島市 平川特設セーリング会場	・セーリング競技の陸上施設は無いため仮設プレハブの対応となる。 ・既設スロープを整備して国体を開催 ・統合アリーナ等を利用する。
3.第80回青森国体(2026年)開催地内定に係る中央競技団体正規視察	6月19日～20日	青森県むつ市 セーリング競技特設会場	・JSAP国体委員会主催により茨城県、鹿児島県、三重県、栃木県、佐賀県の行政関係者及び都道府県競技団体から国体開催の報告、準備状況についての研修会を実施
4.国体セーリング競技研修会の開催	1月17日～18日	東京都夢の島マリーナ会議室	・第74回茨城国体の監督、選手の参加資格について審査を実施
5.国体参加資格審査			・年度登録証の発行及び管理
6.国体ウィンドサーフィン級年度登録			・国体結果・果番号の販売、収益分をJSAPへ納付
7.国体結果・果番号の精算販売	6月16日 9月29日 1月18日	(定例) 夢の島マリーナ会議室 (臨時) 茨城国体会場 (臨時) 夢の島マリーナ会議室	・福井国体、茨城国体リハ大会準備状況等 ・茨城国体実施要項、茨城国体・鹿児島国体リハ準備状況等 ・国体ウィンド規則、リハ大会の種目変更等
8.国体委員会会議	6月16日 9月29日 1月18日	(定例) 夢の島マリーナ会議室 (臨時) 茨城国体会場 (臨時) 夢の島マリーナ会議室	

<備考:反省点等>

- 国体セーリング競技研修会の開催は関係行政機関及び都道府県連との意見交換で成果が多く有意義な会議であり、毎年継続して開催する。
- 中学3年生の参加については更に積極的に進め、ユースの競技力向上を図る。
- 国体参加資格について各都道府県に周知徹底を図り、また「ふるさと制度」の活用を促し、参加者の増員を図る。
- 今後の国体開催について検討を進める。
- セーリング競技を一般市民の方々に身近に感じてもらうためにTV観戦等で解説を行い「見えるセーリング・スポーツ」として継続して実施する。
- 国体会場でのメディア委員会によるチャイルドルームを更に広め成年女子の参加を促していく。
- 国体会場において、環境委員会によるエコバック教室、更には海をきれいにする活動を行う。
- リハーサル大会は、国体開催前に実施しないと参加人数が少ない。
- 運営側の安全対策を周知徹底し、特に監視体制を確立する。

JSAPオリンピック強化委員会 委員長：斎藤 渉 副：

事業内容	時期	場所	成果の概要(評価、反省、次年度への課題や反映事項を含む)
海外派遣・遠征・国内ワールド等	3-4月	スペイン	【主な大会と主な成績】 プリンセスソフィア大会 (3/31～4/6、スペイン・バルマ) 【470女子】 5位 吉田愛・吉岡美穂 【470男子】 8位 市野直毅・長谷川孝 ワールドカップ・ジェノア大会 (4/14-21、イタリア・ジェノバ) 【470男子】 4位 岡田直樹・外富潤平 市野直毅・長谷川孝 8位 土居一斗・木村直矢 【470女子】 11位 吉田愛・吉岡美穂 【レーザーラジアル級女子】 7位 土居愛実 WCファイナル・マルセイユ大会 (6/2-9、フランス・マルセイユ) 【470女子】 10位 吉田愛・吉岡美穂 【470男子】 10位 高山大智・今村公彦 【レーザーラジアル級女子】 4位 富部柚三子 キールウィーク大会 (6/22～6/30ドイツ・キール) 【レーザーラジアル級女子】 2位 土居愛実 【Nacra17級】 8位 梶本和歌子・川田真彰 470級ジュニア世界選手権大会 (6/30-7/1スロベニア) 【470女子】 4位 宇田川 真乃・工藤 彩乃 6位 田中美紗樹・野田乙心 第30回夏季ユニバーシアード大会 (7/3-14 イタリア・ナポリ) 【RS21男女混合】 8位 西坂博之・田原隼人・滝川雄基・水石さおり・吉富愛 ユースセーリング世界選手権大会 (7/15-19ポーランド・グダニク) 【420女子】 10位 小林 奏・白敷 奈津見 470級世界選手権大会 (8/2-8/9神奈川県・江の島) 【470女子】 2位 吉田愛・吉岡美穂 (オリ代表内定) 【470男子】 9位 岡田直樹・外富潤平 東京5輪ヨット競技テストイベント (8/16-22神奈川県・江の島) 【470女子】 4位 吉田愛・吉岡美穂 【470男子】 7位 磯崎哲也・高柳彬 【RS-X 男子】 9位 富澤慎 【レーザーラジアル級女子】 4位 土居愛実 ヘンベル・ワールドカップシリーズ2020 (8/25-9/1神奈川県・江の島) 【470男子】 3位 土居一斗・木村 直矢 11位 岡田直樹・外富潤平 (オリ代表内定) 【RS-X 男子】 6位 富澤慎 【RS-X 女子】 9位 須長 由季 RS-X級の世界選手権 (9/24-28イタリア・トルボレ) 【RS-X 男子】 10位 富澤慎 (オリ代表内定) レーザー-U21世界選手権 (10/26～11/2クロアチア・スプリット) 【レーザー級男子】 4位 鈴木龍弘 49er/FX/Nacra世界選手権 (11/28-12/4ニュージーランド・オークランド) 【49erFX女子】 20位 山崎アンナ・高野奈奈 (オリ代表内定) オーストラリアユース選手権 (1/10-14オーストラリア・ソレント) 【レーザー-4.7級 男子】 3位 岡田 真良 49er/FX/Nacra世界選手権 (2/10-16オーストラリア・ジーロン) 【49er男子】 33位 高橋 稜・小泉雄飛 (オリ代表内定) 【Nacra17】 19位 飯東潮吹・畑山絵里 (オリ代表内定) レーザー級世界選手権 (2/9-16オーストラリア・メルボルン) 【レーザー男子】 63位 南里研二 (オリ代表内定) レーザーラジアル級世界選手権 (2/21-28オーストラリア・メルボルン) 【レーザーラジアル級女子】 8位 土居愛実 (オリ代表内定) RS-X級世界選手権 (2/25-29オーストラリア・ソレント) 【RSX女子】 21位 須長由季 (オリ代表内定)
	4月	イタリア	
	6月	フランス	
	6月	ドイツ	
	6-7月	スロベニア	
	7月	イタリア	
	7月	ポーランド	
	8月	日本	
	9月	イタリア	
	10-11月	クロアチア	
	11-12月	ニュージーランド	
	1月	オーストラリア	
	2月	オーストラリア	

<備考:反省点等>

470女子吉田・吉岡組は安定した成績で、東京オリンピック代表内定を勝ち取った。男子470は、岡田・外富組は、熾烈な争いの中で、代表内定を勝ち取った。ラジアル級女子の土居選手も安定した力で代表権を勝ち取ったが、東京でのメダル獲得にはさらなる向上が必要である。RS-X 男子代表獲得の富澤選手はここに来て入賞回数を増やしレベル向上しているが、メダル獲得に向けて、さらなるスキルアップが必要である。東京オリンピック代表内定を勝ち取った、レーザー級男子南里選手、4.9er高橋・小泉組、4.9FX山崎・高野組、Nacra 17飯東・畑山組、RS-X 女子須長選手各人は、世界レベルに近づいていく。今後、さらなる強化が必要である。

JSAPジュニアユース・アカデミー委員会 委員長：中村 公俊 副：青山 鑑弘

事業内容	時期	場所	成果の概要(評価、反省、次年度への課題や反映事項を含む)
ジュニアユース・アカデミー・シマックス7777事業を以下のとおり全14回実施した。			■評価点 ・延べ560名のジュニアユースセーラーとその指導者の参加を得られた。 ・沖縄から北海道まで全国規模で事業を展開することができた。 ・特に指導者のシマックスへの理解が高まってきた。
第1回津アカデミー	4月6-7日	三重県津市	

第2回半田アカデミー	6月8-9日	愛知県半田市	・各クラブや水城の選手・指導者情報等を得ることができた。
第3回選手アカデミー	6月15-16日	神奈川県選手市	・新たに若いアカデミーコーチの参加があった。
第4回葉山アカデミー	6月22-23日	神奈川県三浦郡葉山町	・時代に合ったコーチングのあり方を提案できた。
第5回稲毛アカデミー	7月14-15日	千葉県千葉市	・新たに指導者を対象としたアカデミーを実施した。
第6回山アカデミー	7月27-28日	愛知県松山市	
第7回光アカデミー	8月3-4日	山口県光市	■反省点
第8回室蘭アカデミー	8月10-11日	北海道室蘭市	・年度の終盤に事業のPRが十分でなく、余力を残して今年度を終了することとなった。
第9回宜野湾アカデミー	11月3-4日	沖縄県宜野湾市	・例年、アカデミー事業を実施している市町への啓発は進んでいるが、未実施の市町も
第10回石垣アカデミー	11月16-17日	沖縄県石垣市	多く残されている。
第11回光アカデミー	12月23-24日	山口県光市	■課題点
第12回高松アカデミー	12月14-15日	香川県高松市	・蓄積されているコーチングノウハウを共有化し、より一層の啓発を推進するための情報
第13回日南アカデミー	12月25-26日	宮崎県日南市	共有の仕組みを構築する。
第14回葉山アカデミー	2月8-9日	神奈川県葉山町	
<備考:反省点等>			

JSAFキールボート強化委員会 委員長:金子純代 副:石黒雄太郎、久保田悟

事業内容	時期	場所	成果の概要(評価、反省、次年度への課題や反映事項を含む)
1.海外キールボートレガッタへの日本チーム出場支援 ・JSAFホームページでのレガッタ情報 ・海外キールボートレガッタへの日本代表チーム派遣 <ネーションズカップグランドファイナル>	4月	米國 サンフランシスコ	マッチレースランキングが国内1位の市川航平チームの参加 代表出場選手は市川航平、小島広久、中山謙平、森健介 結果は世界マッチレースランキング上位のチームとの闘いで優勝したもののファイナルで9チーム中8位
大学生世代別対抗総合体育大会 「第30回夏季ユニバーシアード大会」	7月	イタリア ナポリ	大学対抗U25マッチレース選手権に3位入賞した東京大学チーム(西原優之)が参加 代表出場選手:西原優之22才(東京大学) 池川穂香23才(東京大学) 石谷名樹25才(東京大学)、吉野達22才(神戸大学)、田原龍人22才(東京大学) 結果は16チーム参加し、ゴールドフリートで8位
<RYCグローバルチームレースレガッタ>	9月	英國 カウズ	このレガッタは、2024年、2028年、オリンピック種目を目指してUSセーリングが力を入れている種目の一つ 代表選手は全開から公選した選手の中から選抜した8名(20歳代から80歳代までのセーラー) 結果は12チーム中11位
2.大学対抗U25マッチレース2019の 第8回となる25才以下セーラーによるマッチレース 選手権には2019年開催のユニバーシアード 選手権日本代表権を与える	2月28日~3月1日	愛知県 三浦マリーナ	全開より12チームが参加、毎年、選手レベルがあがっている。既スポンサーからの特別後援も頂き、 又いままでも同様にキールボートセーラー、ヨットクラブが積極的に寄付をいたすなど、関係が広がりつつある。 各地方でキールボートでの練習会等もあがり、デモンストラクターからキールボートへの乗り換えの場も広がった。 出場した上位チームを日本代表として海外遠征へ派遣し、若手セーラー選にフィードバックできている。
3.伊藤園女子レースへ参加	11月3日	葉山マリーナヨットクラブ	葉山マリーナヨットクラブ、NTCのイベント協力
<備考:反省点等>			

JSAPオリンピック準備 委員会 委員長:河野 博文 副:桑原 啓三・小山 泰彦

事業内容	時期	場所	成果の概要(評価、反省、次年度への課題や反映事項を含む)
セーリング・スポーツの普及・発展			
①セーリングサポーター層の構築	通期	国内	本年度国内で開催されたレザラーワールド・470ワールド・ワールドカップを通じ 予想以上の地域住民や一般の方々がレース会場に足を運ばれた。レース解説 では実際の映像にコンピュータ画像を組み合わせたわかりやすく解説する技法が 定着し始めヨットレースの理解が一段進んだと感じる。又WC中継船みらいへ を岸壁に停泊させ多くのファンを呼び込むことができ、来期のファイナルでも ファン層の拡大につなげるツールとした。
②メディア露出・SNSの活用	通期	国内	オリンピックに向けて出場選手の確定などもありメディア露出は格段に増加した。 来期に向けSNSの活用により更に注力していくべく、U t u b e動画の投稿など より積極的にSNSを活用するべく予算を注する予定である。
2020に向け選手強化と国際競争力強化			
①強化委員会のバックアップ	通期		強化委員会の要望に基づき今年度20万円を超える支援を行った。一方 江の島セーリングハウスへのトレーニング機材の導入は既存の機材にて対応 することとし、見送られた。
②RMOトレーニングの支援	通期	国内	国際的に通用するレースマネージメントオフィサー養成のためのトレーニングに 10万円近い支援を行った。多くのIRO誕生を期待したい。
サポーター企業・団体・会員の開拓			
③新たな支援企業の発掘 →ポストオリンピックの取り組み	後半	国内	5年間続いた「日の丸セーラーズ」プロジェクトも来期が最終年度となる。 オリンピックイヤーとなった来期は新たな企業の発掘は至難の業だが、何とか 支援継続をお願いすべく来期に向けた活動を進めている
SWC・各種国際大会の成功	通期	国内	経験豊富な選手をボランティアは今や戦力として充分活用する重要メンバー。 一方学生補助員の確保と扱いがオリンピックへ向けた課題となっている。
外洋メンバーとの連携	通期		年末年始に開催されたパラオレースは大きな意義を持って成功裡に終了した。 2024に向け、外洋メンバーと一体となって更に盛り上げていきたい。
<備考:反省点等> いよいよオリンピックイヤーを迎えるにあたり、今期の最大の反省点はオリンピックに向けた「人」の取り合いだろう。水深の深い海面で競うセーリングは予想以上の レース運営委員を必要とする。熱意の高い学生を確保する為には社会人並みの処遇が必要となり、限られたNTOにも充当せざるを得ず結果として船主メンバーに 継ぎ足しが行き、これまでワールドカップなどでご苦労頂いた重要なメンバーがオリンピックに臨むことできない事態を招いている。何らかの解決策を見出すべきだろう。 準備委員会は来期オリンピック終了後解散となる。オリンピックの成功に向けてだけだの事が出来たのか、来期はその答えが出る期でもある。(文責:桑原)			

JSAP 外洋常任委員会 委員長:馬場益弘 (事務局長) 鈴木保夫

事業内容	時期	場所	成果の概要(評価、反省、次年度への課題や反映事項を含む)
1.外洋推進グループ内の会議開催	2019年9月28日	京都市	全国の外洋加盟団体が集い、外洋における課題や問題点の情報交換を行い 意思疎通を図った。またJSAPが抱える課題や問題点についての課題を共有し た上で、外洋専門委員会からの現状報告や今後の活動方針を周知する中で、 JSAPと各団体及び外洋団体間の連携と会員増強を含む団体運営の強化に ついて協議を行った。
1) 外洋加盟団体会長会議の開催	2019年1月27日	東京:夢の島マリーナ	外洋推進推進グループの本年度実施方針によって、課題の協議調整やワーキン キンググループ活動を通じ、外洋加盟団体との連携向上とグループ全体の活動 を活性化させた。また、オリンピック種目へのオフィシャルレースの採用決定に伴い 関係委員会との連携強化と情報収集に努め、世界選手権出場に向けて活発に 行動した。
2) 外洋常任委員会の開催	2019年5月24日、6月14日、 9月6日、11月29日、 2020年1月16日、2月21日	渋谷:岸体体育館 新宿:トーヨーアサノ	1日は専門委員会関係者が一堂に会し、各委員会からの報告と関係者の意見 交換・質疑応答を行い、外洋全体が同じ情報を共有することで、今後の活動の 円滑化を図るとともに、2日には各委員会が分科会や講習会を開催し、知識の 向上や資格者の技術向上に努めた。
3) 外洋専門委員会合同会議の支援	2020年2月1-2日	北海道函館市	新会員管理システムの構築に合わせて、外洋監理管理についても合理的で 扱いやすさを求め、加盟団体の意見、要望を集約しながら、既設艇が多くの 課題を調整し、システムを完成させ今後の運用に大きな成果となった。
2.外洋監理の管理	通年		新年度に向けて、これまでは完全とは言えなかった艇管理を完備なものにするべく 全艇の再確認を実施しており、今後も継続して作業を行う。
3.外洋に関する情報の発信	通年		外洋関係会議の議事録を全て公開し、全員が閲覧できる限り外洋推進グルー プの活動を明確にしたほか、各レースの情報等をHP上でOn Breezeも活用しな がら情報を発信することで、広く活動をアピール出来た。
4.東京オリンピック2020応援事業の 企画実施	通年		東京オリンピック2020を盛大ならしめるため、聖火リレーの海浜版とも言える外洋 ヨットによる日本一周フラッグリレーを前年に引き継ぎ実施し、オリンピックに対する 関心の共有や気運の高揚を多くの人々に伝えることが出来た。
5.オリンピック・世界選手権への対応	通年		2020年10月開催の世界選手権に向けて、オリ強と連携を取りながら環境整備 や出場権獲得に精力的な情報収集と働きかけを行い、その結果として団体1を 獲得した。これと並行して派遣代表チームの選考基準をいち早く決定し、選考 レースの方法の検討を行い、来年早々に選考レースしっしの運びとなった。
<備考:反省点等> 反省点は特になが、外洋推進推進グループにとって、今年度はオリンピック、世界選手権などに対する考え方に変化が見られ、これらに対するかわり方の意識の増大 や参加する立場での期待感の高揚を招き、今後のセーリング活動の大きな原動力になりつつあると感じた。			

JSAP外洋計測 委員会 委員長:八木達郎 副:

事業内容	時期	場所	成果の概要(評価、反省、次年度への課題や反映事項を含む)
「IRC」「ORC」「PHRF」の維持管理	通年	国内全域	MNAとしてのレーティングシステムの維持管理及び内推進 「IRC」は維持管理及び収支のバランスもとれている 「ORC」の方は収支のバランスをとる努力が必要 「PHRF」は国内ルールであり底辺を支える「オープンレース」で機能している
「IRC」「ORC」の活動と収支の統合会議	2019/12/25	横浜	2019年度では別々に活動していたのでこれからの課題
外洋合同会議への派遣	2020/1/31~2/3	函館	各専門委員会への勝選派遣(全国の委員への意思統一)
加盟団体会長会議への派遣	2019/9/28	京都	全国の加盟団体会長への啓蒙活動
JSAP常任委員会への参加	年6回	トーヨーアサノ	JSAP外洋の重要事項の決定機関
<備考:反省点等>			

JSAP IRC 委員会 委員長:川合 紀行 副:上阪 和功

事業内容	時期	場所	成果の概要（評価、反省、次年度への課題や反映事項を含む）
今期の登録数	通年		証書発行枚数338枚。（1月～12月末） 目標数350枚には少し届かなかった。 次年度も同等数を予想する。
IRC普及活動	通年		IRCルールの利用普及のために各地で開催されるレースについて、 継続的に支援できた。
計測機材の維持	通年		5トン・12トン・20トンの重量計3機を保有している。 今期もイギリスに送りキャリブレーションを行った。
IRCオーナーズ協会からの普及活動	通年		今期から会長が永松氏に代わり、IRCコンGRESにも参加していただいた。
主要規格レースへの支援	7月・11月	三重 鹿兒島	パールレースは台風の高直前に中止になった。1名派遣 全日本ミニトン選手権は2名派遣した。
国際会議への派遣	10月	フランス（コートダジュール）	IRCオーナーズ協会より永松会長、IRCレーティングオフィスの角氏の2名が参加。 ルール変更、各国からの報告を受けた。
JSAF専門委員会会議への参加	12月	東京	合同委員会パネルディスカッションについての準備会議への参加
IRC委員会準備検討会	12月	名古屋	コンGRES報告、ルールの解釈他次年度への準備会議を行った。
外洋合同委員会会議への参加	2月	函館	外洋加盟団体や、各委員会にコンGRES報告、ルールの変更点の解説 パネルディスカッションなどに参加、説明を行った。
IRC委員会会議	2月	函館	合同委員会に集まった委員会メンバーにコンGRES報告、ルール変更の説明 来期の計測セミナーの場所等の打ち合わせをした。
ODC計測委員会会議(クラス協会)	3月	和歌山	メンバーの派遣

<備考:反省点等>

事業内容	時期	場所	成果の概要 (評価、反省、次年度への課題や反映事項を含む)
ORC監査 発行事業	通年	全国	今年度目標は100隻への監査発行を目指したが、目標の半分の51隻にとどまった。年度によって 計測実施は 変動する。今年度は 2隻に対してORC計測を行った。
ORC計測事業	6月、12月	沖縄、三崎	吉田、水越が参加。ORCの成績算出ソフトの講習会を 実施した。ORC資料を加盟団体に配布。
合同委員会	2月	函館	和歌山
ORC会議	3月	和歌山	コロナウイルスで ORC会議は 延期された。
ワールドセーリング、ORC会議への出席	11月	バーミンガム	高須氏の参加を予定していたが、2018年度のORCレビの支払いに充てるために、事業中止
ORC計測講習会	6月、12月	西宮、三崎	2回の講習会を予定していたが、2018年度のレビ支払いに充てるために、事業中止
加盟団体長会議	10月、1月	京都、東京	加盟団体長全員で ORC規程委員会の活動報告、IRCと並び取りように関する協議。
ORC講習会	12月	東京	2020年度のORCのルール変更の講習、WSとORCコンプレックスの 報告
ORC監査発行業務	通年	全国	レーティングオフィサーが 担当して 監査発給を行った。
ORC事務局	通年	全国	ORC監査の申し込みを受け付け、計算書に配布、テスト監査を TCがチェック後、オーナーに発給。
HP管理費用	通年	全国	ORC委員会の HPを管理する、掲載物の管理や差し替えを行う。ORCニュースの掲示。
TCチェック	通年	全国	レーティングオフィサーの発給するテスト監査を チェックして 正式発給する作業
ORCルール 日本版への書き換え	2月	全国	毎年の変更点を翻訳する作業

JSAF 外洋安全 委員会 委員長：大坪明 副：川合紀行

事業内容	時期	場所	成果の概要 (評価、反省、次年度への課題や反映事項を含む)
【基本活動】			
1. 委員会会議の実施	通年		メールベースで問題検討。
2. ホームページやフェイスブックでの広報	通年		委員会独自のホームページにて即時性を持った広報活動を実施。フェイスブックでは公示に至るほどは無い周辺情報などの対応、およびホームページの更新情報の掲載などでさらに即時性を高める広報活動を実施。
【外洋特別規定 (OSR) 普及】			
1. OSRの翻訳および国内規定策定	通年		翻訳、国内規定の検討。翻訳や翻訳の箇所を訂正。改訂版発表。 2019年8月全文翻訳版を発行発売。 2020年8月改訂された2020-2021年版の全文翻訳版を発行発売。
2. OSRに関する質疑対応	通年		メールを中心にユーザーからの質問に回答。各地方では、委員が直接質問などに対応。今後は、特に多い質問に関してQA方式でホームページに掲載することがユーザーの便益性、委員の負担軽減に繋がると思われる。
3. OSRの啓蒙	通年		委員が各地域にて直接ユーザーに啓蒙活動を実施。全国全体では2月開催の外洋合同委員会会議にて運用の注意事項を発表。
4OSRクリニックへ講師派遣	通年		2019度は実施無し。2020度は改訂年にあたるので派遣依頼の可能性あり。
5. OSRクリニックの開催	通年		2019度は実施無し。2020度は改訂年にあたるので実施予定。
6. OSR家トレーニングの開催	通年		OSRに定められたWorld Sailing認定トレーニングの開催基準策定作業の開始。2020年度中にJSAF監定のトレーニング事業の開始を目指す。
【安全航行啓蒙】			
1. 安全航行に関する情報発信	通年		ホームページやフェイスブックを通して、新しい機器やサービスなど安全航行に役立つと思われる情報を発信。
2. 春の安全週間の実施	2019年4月6日～14日		艇や装備の点検整備や乗員の訓練などを再認識してもらう事業を実施。あわせて訓練中の画像 (静止画・動画) を募集。
3. 秋の安全週間	2019年8月31日～9月8日		艇や装備の点検整備や乗員の訓練などを再認識してもらう事業を実施。あわせて訓練中の画像 (静止画・動画) を募集。
4. 安全講習会へ講師派遣	通年		2019度は実施無し。
5. ヒヤリハット体験募集	通年		OSR普及事業のWorld Sailing認定トレーニングに併せて、カテゴリ-3や4のレースを対象とした日本独自のトレーニングの実施を検討。
6. 海難防止強調運動へ協力	通年		安全航行への参考書アーカイブとして、ヒヤリハット体験を募集。事故報告の義務化と重なる部分はあるかと思うが、こちらは事故に至らないケースなどを中心に情報収集する。なかなか情報が集まらないので、情報収集の仕方を工夫する必要がある。
7. 事故報告体制構築	通年		海上保安庁、(公財) 海上保安協会、(公社) 日本海難防止協会主催の「全国海難防止強調運動」の実行委員に委員長が委嘱。 外洋艇の事故報告の授受、整理。事故報告を元にした会員へのフィードバック作りのノウハウスキルを向上させる必要がある。
【外洋合同委員会会議】			
1. 外洋合同委員会会議の開催	2020年2月1日	北海道 (函館市)	外洋安全委員会、外洋計測委員会、レース委員会外洋小委員会、ルール委員会外洋規則小委員会共同主催。ルール委員会外洋規則小委員会が幹事委員会。 加盟団体8団体、特別加盟団体2団体、出席総数40名。 外洋安全委員会からは、「適性」「外洋特別規定」「安全航行に向けて」「各団体へのお祝い」を発表した。 合同委員会翌日には各委員会主催のクリニック等が開催され、2日間でレース主催に有用な情報が取得でき、出席した加盟団体の各担当には有益であったと思われる。 2020年度は神奈川県で開催予定 (レース委員会外洋小委員会が幹事)。
【無線局普及】			
1. VHF無線海岸局の管理	通年		T1ch/74chの無線海岸局の運用許可。JSAF未登録艇の海岸局加入の審査。
2. 無線船舶局の普及	通年		民間業者 (船社) 主催の免許取得講習会にJSAF委員受講時は10%割引引きとなる契約。
3. 無線免許 (海上特殊無線技士) 取得奨励	通年		民間業者 (船社) 主催の免許取得講習会にJSAF委員受講時は10%割引引きとなる契約。
4. 通信機器・免許などの取得許可の簡便化へ向けての働きかけ、など	通年		海外で流通しているが、日本国内ではまだ法的に使用が認められていない新しい位置表示システムの機器情報を収集。

JSAF アメリカズカップ 委員会 委員長：植松直 副：西村一広

事業内容	時期	場所	成果の概要 (評価、反省、次年度への課題や反映事項を含む)
ユースアメリカズカップへの挑戦	通年		日本からのユースアメリカズカップへの挑戦は、日本の次世代セーラーに、セーリングを続ける意欲を持たせ、大きな夢を与えた。

JSAF障がい者セーリング推進 委員会 委員長：高間信行 副：外山昌一

事業内容	時期	場所	成果の概要 (評価、反省、次年度への課題や反映事項を含む)
1. パラリンピックにおけるセーリング競技の復活	通年		(1) 2019WSC (北の海) の加盟団体の認知を高め、JSAF加盟・特別加盟団体、実行委員会と連携して障がい者日本選手団の参加増員を高め、障害者セーリング選手に関する実行委員会の運営支援に協力する事を目標にしたが競技種目に採用されなかったため実行できなかった。 (2) 2019年パラワールドチャンピオンシップへの参加をJSAF加盟・特別加盟団体へ働きかけたが、特別加盟団体の主要な選手を揃えず派遣できなかった。引き続き、JSAFからの派遣ができるよう取り組んで行く。 (3) 2019年に行われるワールドセーリングのPDP (パラリンピック・デベロップメント・プログラム) への受贈 (選手・コーチ) の参加を加盟団体、特別加盟団体へ促す。PDPがキャンセルされたため呼びかけ出来なかった。 (4) 2020年パラワールドチャンピオンシップ日本開催を実現するために関係するJSAF加盟・特別加盟団体、行先を含めた関係団体と連携を図り準備を進よとしたが、WSの方針により2020パラワールドがキャンセルされたため実行出来なかった。同様な大会があれば次年度も取り組んで行く。 (5) 2019年PDPの日本開催に向け取り組む。WSの方針によりPDPがキャンセルされたために調整の取組みが出来なかった。次年度再開催されれば同様に取り組んで行く。
2. 障がい者セーリングの普及推進	通年		(1) JSAFの6普及・強化推進拠点にコアに各水域に対する障がい者セーリング推進委員会への参画要請は進んだが各拠点への活動提案が出来なかったため次年度は提案していく。 (2) 障がい者セーリングへの理解を高めるためにJSAF加盟・特別加盟団体・委員会、会員、外部へ広報活動を行う。理解を深めるために委員会情報を展開してきた。 (3) JSAFホームページに障がい者セーリングに関する事を情報提供ページに掲載活用し普及に努めた。その結果委員会に問合せが来るようになった。 (4) 障がい者セーリングの発展発展、安全のため、障がい者セーリング行事運営についてJSAF加盟・特別加盟団体に向け研修を行う事が予定通り出来なかった。今年度は、基盤的な計画の練り直しをして行く。 (5) 全国障がい者スポーツ大会におけるセーリング競技の採用を実現するために関係加盟団体等と連携を取りあつた。また、東京都障害者スポーツ大会にオープン競技として実現するよう働きかけを行い成功し2020年に東京で大会が開催されるようになった。 (6) スペシャルオリリンピックへの対象の拡大検討を進めるうえで、基本的情報の収集と方針の策定案を検討する。対応団体が無いため引き続き情報収集を進める。
障がい者セーリングにおける強化推進	通年		2019年以降のパラワールドチャンピオンシップ、国際大会参加、2028年パラリンピックに向け以下のことを行う。 ・ JSAFの6普及・強化推進拠点 (候補地) から強化フリの指定をする事が情報不足と委員会方針が明確化でないために出来なかったため委員会として情報収集の改善を進める。 ・ パラワールド等における採用艇艇の中から、強化種目を指定する。パラワールドがキャンセルされたために艇艇の選定が出来なかった。次年度以降世界情勢を踏み艇艇選定を行う。 ・ 国際大会での順位向上を、関係するJSAF加盟・特別加盟団体と連携して目指すとしたが、各団体との連携が進まず目標の国際大会も無くなり強化に対する再検討をして行く。

JSAF 海 その愛基金 海洋環境クリーンプロジェクト推進 委員会 委員長：加山雄三 副：河野博文

事業内容	時期	場所	成果の概要 (評価、反省、次年度への課題や反映事項を含む)
① 海を再生する			
(1) 四ヶ所クリーン活動への支援	10月13日	鎌倉・由比ヶ浜海岸	江の島付近の海岸にて、JSAF協賛企業社員の参加によるビーチクリーン活動を実施。加山雄三とリビエラリゾートはSDGsを推進する「若大将ビーチクリーン」を開催し、リビエラビーチクリーンの特別版、神奈川県黒岩知事、鎌倉市長らも参加予定であったが、荒天のため中止となった。
(2) 音楽フェスを通した海洋環境クリン訴求	2019/4/13 2019/07/14-15	由比ヶ浜 代々木公園	グリーンルーム、由比ヶ浜では、500名ほどの参加者、若者が参加、ロゴのついたのぼりを立て、Fesの前後に加山さんのビデオメッセージを放映し、海洋クリーンへの意識啓蒙を図った。5/25-28の横浜赤レンガは中止。代々木公園Fesでは、出演メンバー1組を提供頂き、そのなかでパネルや加山さんメッセージビデオにより、マイクロプラスチックの課題を訴求。また、セーリングのVR体験、きれいな海で自然保護した高松樹に塩フェオレのレシビ、紙ストローをつけて配布し、2日間で約1000名の若者や家族連れに海洋環境保全を訴求した。
(3) 海洋環境保全手法のアイデア募集と専門機関における実現性の確認			未実施
(4) 海洋環境保全年間表彰制度の検討			未実施
② 海を知る			
(1) 海洋環境クリーンプロジェクト推進ワークショップの開催および実施	-	-	東京海洋大学内田准教授と調整の結果、覚書締結を実施し、マイクロプラスチックの教育資料の企画制作について、大学から支援を受けることを実現した。

(2) 釣洋艇による日本沿岸の海水採取とマイクロプラスチック含有量調査支援	12月-1月	小笠原 横浜-パラオ	小笠原レースイベントの一環として、マイクロプラスチックを採取する特殊な網を購入し、小笠原までのセーリング航海中にマイクロプラスチックを採取した。これをもとに、海洋大学の研究に活かし、JSAPとして、日の丸セーラーズ広場に本州一周フラッグリレーにて日本沿岸の海での採取を行いながら実態を提示して、海洋環境保全を訴求していく。 また、パラオ共和国との親善をテーマに、国立研究開発法人海洋研究開発機構（JAMSTEC）との協業によるマイクロプラスチックを中心とした海洋環境保全を訴求活動を検討。 駿河湾海底2400mの動画では買い物袋などのゴミが海底に散乱している様子がわかり、海洋ゴミについてとてもわかりやすいコンテンツも発見。
(3) 田中学校、PTAへの海洋環境クリーン防汚授業の実施	4月-10月	神奈川県	神奈川県と協業して、海洋スポーツの認知と海洋環境クリーンの必要性を県内116の小学校で正式授業として展開実施。体育館に1学年全員が参加して、2時間の中で、まず、PTAを含めた全員に対して加山委員長のメッセージビデオを放映し、その後、4つのグループ（セーリングの原理、ロープワーク、OP乗船、海洋環境保全学習）に分かれて、順次体験学習を実施。
(4) ユニオやユース世代でセーリングを開始する子供達、および父兄に対する海洋環境クリーン教育の実施 ③艇を体験する		小笠原	海洋大学の先生による、地元子供達への海洋保全の講習会を実施したり、町を上げてのビーチクリーン実施や、セーリング体験を行った。
(1) 海洋スポーツに関心を持つための機材道具の制作	4月～6月	-	ランドOPを実現すべく、ラダー部分に軍を付けた船台を製作。業務用扇風機を用意し、体育館での帆走テストを試みた。艇は微妙に難送るものの、扇風機騒音が大きく、体育館での授業としてふさわしくないことが判明。引き続き、自然の風を使用したテストへの移行を行った。風に合わせたタイヤの調整や、追い風帆走の際にバウに転倒しないような船台の補強を検討することとなり、未定時、マシン事業協会のクラフトセンターに出発、海老付製菓型の「のぼり」と「帆脚機」を海がし、米壽した子供達や家族連れに海洋環境保全を訴求するとともに、ランドOPによる、陸上体験乗船を提供。約1000名の子供とその家族が来場。
(2) 海洋スポーツに関心を持つためのイベントの実施 <備考:反省点等>	2019/07/6-7	ららぽーと豊洲	

JSAP e-Sailing 委員会 委員長：尾形 副：望月、宮野

事業内容	時期	場所	成果の概要（評価、反省、次年度への課題や反映事項を含む）
e-sailingをPRしセーリングファン の開拓および普及	8月	江の島	マスコミ、一般の方へのPRで広く普及レファン拡大に努めた。
	2月	-	現役セーラーに模擬レース体験の機会を提供し普及に努めた。
	3月	横浜	J-Sailingを活用しe-sailingのPRし普及に努めた。（2019年度発行予定）
<備考:反省点等>			ポートショーでのPRは新型コロナ関係で中止。次年度機会があれば継続。